

# 市の誤った過少申請で1.47億円の損失が発生 この問題を代表質問でただひとつ厳しく追及した共産党

## 釧路市2施設申請ミス 交付金1億700万円下回る

【釧路】釧路市は12日、市内のへき地診療所2施設を対象とする国の助成制度を誤った。2014〜18年度の5年間の交付金額が、市のミスにより本来受けられる金額を約1億4700万円下回ったと明らかにした。14年度の申請について、2施設のうち1施設は、14年度から過少申請した。市は「休むて」を言っている。市は「今後大きな改正が必要」としている。市は「今後大きな改正が必要」としている。市は「今後大きな改正が必要」としている。

釧路市は12日、市内のへき地診療所2施設を対象とする国の助成制度を誤った。2014〜18年度の5年間の交付金額が、市のミスにより本来受けられる金額を約1億4700万円下回ったと明らかにした。14年度の申請について、2施設のうち1施設は、14年度から過少申請した。市は「休むて」を言っている。市は「今後大きな改正が必要」としている。市は「今後大きな改正が必要」としている。

10日から始まった各会派の代表質問。この大問題を取り上げたのは共産党の村上議員だけでした。市政をチェックするのが議会の仕事。与党であったとしても、この不祥事に、「見て見ぬふり」は許されません

13日付の北海道新聞の5面に、阿寒・音別の診療所の運営費の赤字分の補填を目的とした国保調整交付金で、市が誤った申請を繰り返したため、1・47億円の損失が生まれたことを報じました。26年度に、これまで外来診療日の日数に応じて補助してものを、外来を開けていなくても入院患者がいれば、その日数分についても補助することに制度が変わりました。しかし市は、そのことを理解せず、ずっと外来日数分のみを申請。発覚後、一部申請のやり直し等で救済された分はありますが、結果として、本来交付を受けられる金額から、1・47億円も少ない

交付金しか受け取れなかったのです。被害を受けたのは市民です。阿寒にしても音別にしても、病院経営は赤字。それを市民の税金で穴埋めしています。今回の1・47億円の損失のために、市民は負担する責任がなかったはずの分も、知らぬ間に負担させられていたのです。この問題が市議会に伝えられたのは1月下旬でした。共産党議員団は、調査活動を進めつつ、市に対して一刻も早く公表するよう繰り返し求めてきました。しかし、市は隠蔽と言われてもしかたない対応を続けていたのです。

## 村上かずしげ議員の代表質問から



(村上) 去年は介護保険で申請誤りを犯しておきながら、今回の申請誤りが繰り返された。反省すべきではないか。  
(市長) 結果として過少申請になったことは申し訳ない。

(村上) こうした誤りが、各地で生まれている可能性がある。国に対して、全国的な調査を求めるべきではないか。  
(市長) 釧路市として、そうしたことを求める立場にはない。

(村上) 昨年度の申請誤りでは、市の幹部職員が損失額を全額補填した。こうしたやり方には共産党は賛成しないが、今回は損失分をどうするのか。  
(市長) 昨年との誤りと違い、職員の重大な過失は問えない。

(村上) ほかに問題ある申請はないのか。継続的に補助金交付を申請している全事業について、再チェックを行え。  
(市長) 新旧対照表でチェックしている。

(村上) なぜ、市民に公表しないのか。  
(市長) 議会に報告したので問題ない。

(村上) 道内の有床診療所はすべて誤った申請をしていた。全国的にもそうした誤りがあるかもしれない。国や道にも責任があるのではないか。補填を求めるべき。  
(市長) 道には変更点は丁寧に説明してほしいと求めた。補填については求める立場ではない。